

要望書

物流対策の推進について

～ 国道3号 宇城～八代間の機能強化 ～



八代市岡町谷川付近

令和4年11月

熊本県八代市

国道3号の様々な整備推進につきましては、衷心より厚く御礼申し上げます。

九州を南北に縦断する本線は、本市において、九州縦貫自動車道八代IC、南九州西回り自動車道八代南ICや日奈久ICと接続し、また、九州新幹線新八代駅もほぼ直結することから、県南地域の生活及び経済活動になくてはならない道路です。しかしながら、八代ICから以北の宇城市までは2車線のため、交通混雑により定時性が担保されない課題が生じています。また、平成28年の熊本地震では、本市東側の山裾を通る九州縦貫自動車道と本市西側の八代海沿いを通る県道が被災し、全面通行止めになったことから、本線は大渋滞し災害支援や復旧活動をはじめ、日常生活にも大きな支障が生じました。

本市では、‘くまもと県南フードバレー構想’や‘フードバレーやつしろ’の中で、豊富な農林水産物の首都圏等への販路拡大や拠点づくりに取り組んでおり、八代港は、アジアへの貿易拡大等によるコンテナ貨物、木材などの取扱量が増加しています。さらに、平成29年に国際旅客船拠点形成港湾の指定を受け、令和2年3月には、クルーズ客船専用岸壁、クルーズ旅客ターミナルなどが完成しました。現在は、世界的な新型コロナウイルス感染症の影響により、クルーズ客船の寄港が難しい状況にありますが、収束後の将来は、年間寄港数として200隻を目標としており、外国人観光客によるインバウンド効果が大きいと期待されます。これらの物流・人流のほとんどが本線を利用するものです。

さて、ここ数年は全国各地で、豪雨や台風、地震などの激甚な天災が頻発し、本市においても令和2年7月豪雨災害で甚大な被害を受けた坂本町に続き、本年9月にも台風第14号の豪雨により泉町でも甚大な被害が生じております。本市には本線や九州縦貫自動車道直下付近に日奈久断層帯が存しており、熊本地震並みの地震発生が懸念され、災害時の多重性・代替性のある広域的な道路の確保が必要です。

このようなことから、本市には、平常時も災害時も問わない安定的な物流・人流を確保された広域道路ネットワークが必要不可欠です。

つきましては、宇城～八代間の機能強化に向け、一層のご配慮を賜りますようお願いいたします。

令和4年11月

八代市長 中村博生